

磨き続けた切れ味



株式会社塚谷刃物製作所

特殊刃物業界のリーディングカンパニー

創業から半世紀以上、塚谷刃物製作所が作り続けてきたのは、工業分野において最も重要な「切る」、「抜く」という作業を担う工業用特殊刃物（カッティング・エッジ）だ。現在では、熱処理から機械加工まで行う一貫生産体制を確立し、少量多品種・小ロット・短納期等、顧客の簡単ではないニーズに対応している。同社の主力製品は3種類。それぞれが市場で占めるシェアは非常に高い。

段ボールや紙パッケージを平面展開図通りに打ち抜くトムソン刃は60%。帳票類にミシン目を入れたり、パンチ穴を開けたりすることを主としたビジネスフォーム刃にいたってはシェア90%を誇る。

この両製品の製作で培ったノウハウ

を基に開発した第3の主力製品、回転運動によりタック紙等を打ち抜くピナクルダイ（腐食刃）—ピナクルは登録商標も、後発参入でありながら、同じく高いシェアを占めている。

精密製品の打ち抜きに対応 よりシャープな刃先幅 「ピナクルダイ」

特にピナクルダイの製造では、内作の特殊工具を用いた独自のシャープニング技術を開発し、刃先の中、刃の高さ精度を、プラスチック数ミクロンの精度で加工することに成功。より精密な打抜きを可能にした。しかも標準納期は2日と短納期を実現したのだ。

様々な製品の小型化・電子化が進み、より高い精度が要求されるようになった現在、このピナクルダイは電子基板や携帯電話、デジタルカメラの液晶フィルムといった精密製品の打ち抜きに最適であり、需要は大いに拡大している。

「自信を持って世界で勝負」

「運が良かっただけではない」。塚谷俊哉社長はピナクルダイの成功をそう語る。「トムソン刃で培った『抜く』技術があればこそ、時代の流れに対応できた。今後も、自社の技術を活かせる『新しい分野』を追求していきたい」と話す。

既に世界28か国に製品を輸出している同社。海外のマーケットも着実に拡大している。「消耗品を作るための刃物を製作

しているため、人口が減りつつある国内だけを睨んではいけない。東南アジアや欧米各国への販路拡大の余地はまだまだある」と語るのも、「自信を持って世界で勝負できる製品を作っている」からこそその展望だ。社員を信頼し、聞く耳を持ち、自然と意見が出てくる雰囲気をつくることを心がけている塚谷社長。

「品質はいつか必ず他社に追いつかれる」——、そう思うからこそ、一歩でも先をゆく技術・新しい分野を目指し、社員の力を最大限に引き出す環境づくりに余念がない。

主な事業内容

コンピューター用紙印刷用ミシン刃、紙器打抜用トムソン刃、シール・ラベル・フィルム打抜用エッチングダイ等の工業用特殊刃物の製造・販売等



塚谷俊哉さん
代表取締役社長

株式会社塚谷刃物製作所

Company Profile

住所 / 〒581-0814
大阪府八尾市楠根町5-30
創業 / 昭和26年7月
設立 / 昭和35年12月
資本金 / 9,000万円
従業員 / 270名（平成21年1月現在）
TEL / 072-996-8770
FAX / 072-996-8777



<http://www.tsukatani-hamono.co.jp/>